

	千葉大学 医学系分野
学部・研究科名	医学部（第1年次：117 第3年次：5） 医学薬学府（医学研究院）（M：77 D：123） 真菌医学研究センター
沿革・設置目的	<p>医学に関する教育・研究を行うことを目的に、共立病院、公立千葉病院医学教場、県立千葉医学校、第一高等中学校医学部、第一高等学校医学部、千葉医学専門学校、官立千葉医科大学を経て、昭和24年（1949年）千葉大学医学部として設置された。</p> <p>昭和24年（1949年） 千葉大学設置と同時に医学部設置 昭和24年（1949年） 腐敗研究所設置（平成9年（1997年）真菌医学研究センターに改組） 昭和30年（1955年） 大学院医学研究科設置（平成13年（2001年）に医学薬学府（医学研究院）に改組）</p> <p>平成16年（2004年） 国立大学法人に移行 平成22年（2010年） 真菌医学研究センターが共同利用・共同研究拠点に認定</p>
強みや特色などの役割	<ul style="list-style-type: none"> ○ 千葉大学の理念等に基づき、高い倫理観に裏打ちされ、知識・技能のみならず新たな発見を目指す創造性豊かな医師・研究医等の育成を積極的に推進する。特に、学習成果基盤型教育（OBE）、多職種連携教育（IPE）などに関する先導的な取組をベースに、国際標準を上回る医学教育のモデル構築に貢献する。 ○ 今後の千葉県内の急速な高齢化に対応するため、各地域の医療ニーズを的確に把握した地域の医療機関との連携や、総合的な診療能力を有する医師養成のモデルの構築を積極的に推進する。また、環境健康医学、司法精神保健学、法医学による死因究明、子どもの心の発達研究など、社会・地域の様々な課題に貢献する取組を積極的に推進する。 ○ 基礎医学と臨床医学が融合した「治療学」の創成に向け、免疫学（特にアレルギー疾患、がん免疫療法等）、がん（特に消化器がんの遺伝子治療等）、社会精神医学、小児発達学、真菌感染症等を始めとする、基礎医学、臨床医学の各領域における研究の実績を活かし、先端的で特色ある研究を推進し、新たな医療技術の開発や医療水準の向上を目指すとともに、次代を担う人材を育成する。また、臨床研究中核病院として、国際

水準の質の高い臨床研究や難病等の医師主導治験を推進するための中心的な役割を果たし、日本発のイノベーション創出を目指す。

- 県内唯一の医育機関及び特定機能病院としての取組や地域がん診療連携拠点病院、第二種感染症指定医療機関等としての取組を通じて、千葉県における地域医療の中核的役割を担う。